

新聞読んだ考えた

八戸学院光星高3年
くほ なな み
久保 奈々美さん

2022年3月2日付16面「原発と脱炭素根強い不信 再稼働少数」 欧米では、発電時に二酸化炭素を出さない原発の活用を目指す動きが出ている。エネルギー価格の高騰で、安定電源としての原発が再評価されている。一方、日本では東京電力福島第1原発事故の影響で、原発への不信が根強く、再稼働は少数にとどまる。



さまざまな発電方法があるが、日本では火力発電が最も多く、記事によると2020年度の電源構成比では約80%を火力が占めている。火力発電は安定した電力供給ができるというメリットの半面、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出するというデメリットがある。

一方、太陽光や風力といった再生可能エネルギーは発電時に二酸化炭素を排出しないので地球にやさしい。しかし、

発電方法組み合わせ

日照量や気象条件によって発電量が左右されるので、安定した供給が難しい。

一体、どの発電方法がいいのだろうか。それについては国によって考え方が違うようだ。

日本は、2011年3月の東京電力福島第1原発事故により、原子力発電に対する不信が根強いようだ。帰還困難区域となり、そこに住めなくなった人が今もいるため、原子力発電は怖いと思う人もいるだろう。環境や安定供給を考えれば、火力や原子力、再生可能エネルギーなど、それぞれの特徴を理解しながらうまく組み合わせることが大切だと思う。